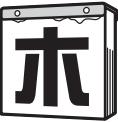
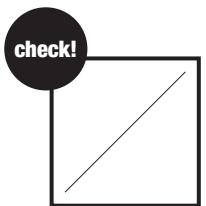


今度は伴奏タイプではなく、フレーズとして8ビートのニュアンスを体験しましょう。シンプルな楽譜をカッコ良く弾くポイントは、音の長さです。鍵盤を離すタイミングにも注目してみましょう。



check!  
313  
365



## タイトにまとめる

Track 323 J=110

普通に弾くとビートが流れてしまいがちなフレーズです。4分音符は8分の刻み感覚を持ち続けながら、テヌートでノン・レガート気味に弾きましょう。



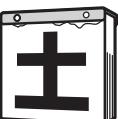
check!  
314  
365



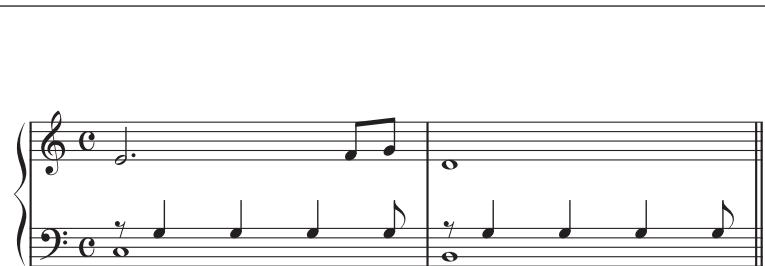
## 2音の音程をキメてビート感を出す

Track 324 J=110

右手の6度音程をカチッと決めて弾きましょう。そうすることで、左手の7度、3度音程もくっきりと浮かび上がります。固めの音色で弾いて、ビートを全面に出していきましょう。



check!  
315  
365



## 流されない

Track 325 J=110

左手のシンコペーションが流れで行かないように、8分の刻みをしっかりと感じながら弾きましょう。



## 濃い味、薄い味

ビートをどれくらい主張させるか、それは各自の自由です。味付けで表現してみれば、濃い味は、こってり、どっぷり、パンチとキレも効かせて、ビートに全面的にノッていく感じです。薄味は、さらっとライトに、軽快に、ビートをあまり出さないで、エレガントさを重視します。どちらにしても、横の流れを大切に弾きましょう。中途半端、もしくは味がない!? というのが一番いけません。

一度濃い味で練習して、各自お好きな濃度に薄めていくという考え方もあります。必ず、しっくりくると

ころがありますので、好みを自覚しましょう。その上で、個性を出して演奏できるのが何より楽しいところです。ポピュラーやジャズには、たいていの場合、「こうでなくてはいけない!」という縛りはありません。多くの人に、「いいね」と言ってもらえばそれでOKなのです。